

「東大卒業生のキャリアに関する調査」基礎的分析結果 III

2023 年 5 月

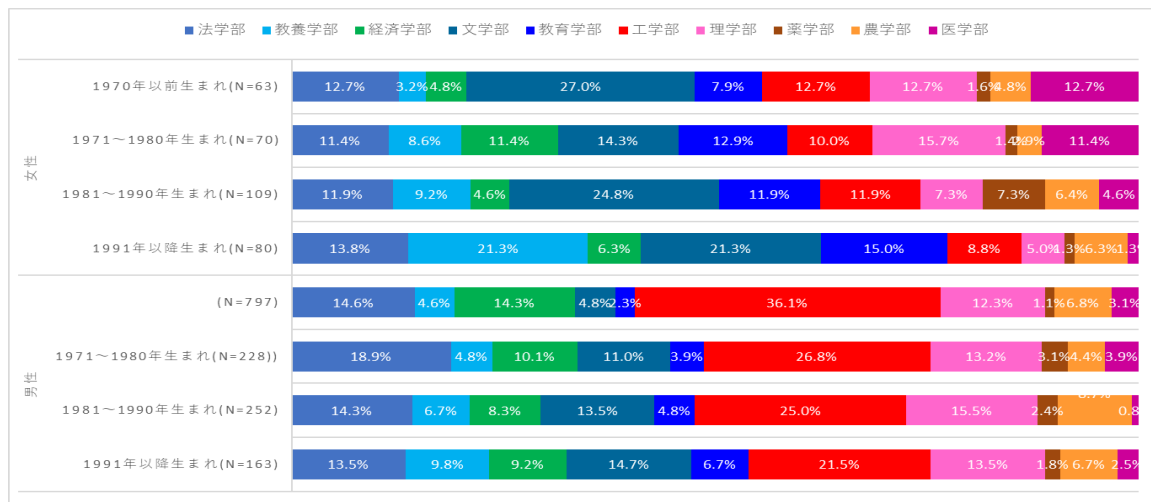
東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学コース教授 本田由紀

※本調査の概要（調査時期等）は、先に以下の URL で公表した「基礎的分析結果 I」に記載してあります。

<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/archives/5251>

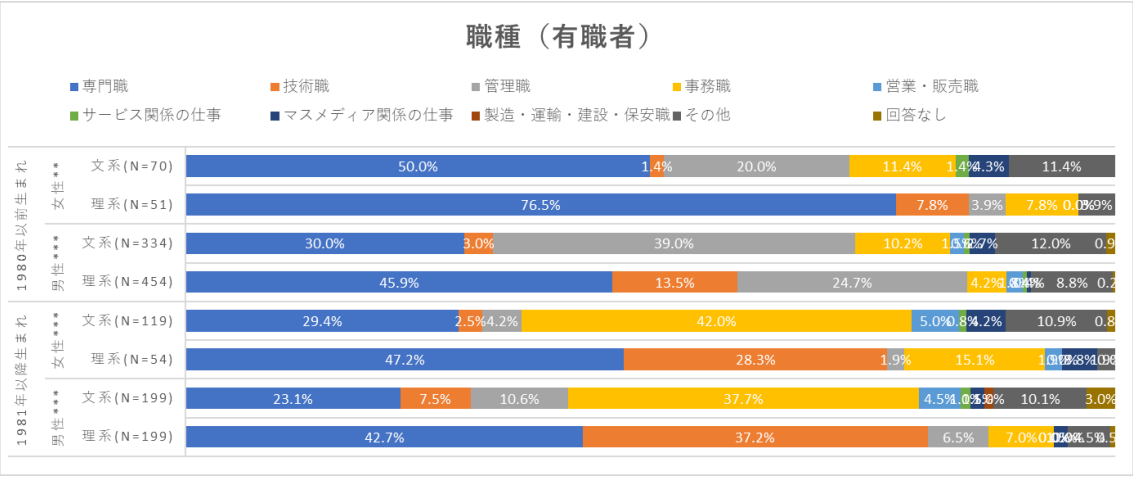
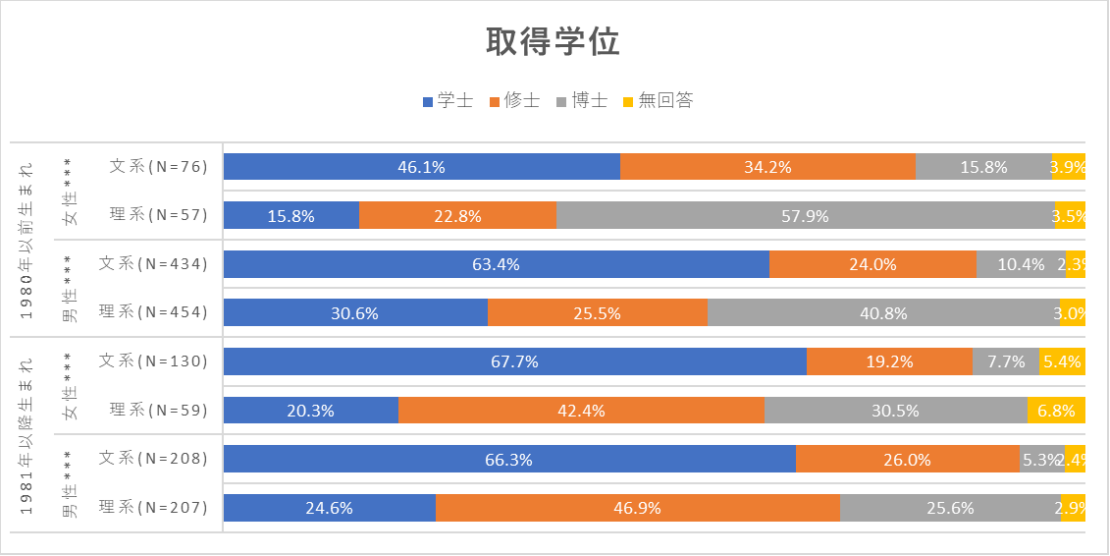
※「基礎的分析結果 III」では、東大学部卒業生を対象を絞り、卒業学部が文系か理系かにより違いが見られた項目を示す。文系とは法学部、文学部、経済学部、教育学部、教養学部、理系とは工学部、理学部、薬学部、農学部、医学部を意味する。教養学部内には理系的専攻分野も含まれているが、今回は文系に統合している。

なお、回答者の文理構成を性別・出生年別に見ると、男女とも若い年齢層ほど文系出身者がやや多くなっており、これは母集団の出身学部構成を反映していない。



文理別の回答者の基本的な違いとして、最終的な取得学位が文系はほぼ6割以上が学部卒（学士）である（年配層の女性では46%）のに対し、理系では学士は2～3割で、修士が年配層では2割強、若年層では4割強を占め、また博士が年配層の女性では6割弱、男性では4割、若年層では男女とも3割前後を占めているということが挙げられる。

また、有職者の職種についても、理系では専門職（医師・研究者・教員など）および技術職が多いのに対し、文系の年配層では管理職が相対的に多く、若年層では事務職が多いという相違もある。



【主な結果】

1. 社会に対する考え方

- ・(図1)「生活に苦しんでいる人は、努力が足りないせいだ」という考え方に対しては、総じて文理ともに否定的な回答が多いが、「まったく賛同しない」という強い否定の回答に注目すると、理系よりも文系で、また男性よりも女性で、年配層よりも若年層で多い。
- ・(図2)「自分がんばっても、社会を変えることはできない」という考え方に対しては、特に若年層の理系男性で肯定する回答が多い。
- ・(図3)「地域や国の政治に関心がある」という考え方に対しては、総じて肯定する回答が多いが、同年齢層・同性別内では文系よりも理系において肯定的回答が相対的に少ない。

・(図4)「社会運動や労働運動に関心がある」という考え方に対しては、同年齢層・同性別内では理系の方が肯定的回答が相対的に少ない。

2. ジェンダーに関連する事柄

・(図5)「男性は働いて収入を得ることが重要だ」という考え方に対しては、年配層の男性で特に肯定する回答が多い。同年齢層・同性別内では、文系よりも理系の方が肯定的回答が多い。

・(図6)「家事育児は主に女性が担うべきだ」という考え方に対しては、総じて否定的な回答が多いが、「まったく賛同しない」という強い否定の回答は、同年齢層・同性別内で文系の方が多い。

・(図7)「日本社会は男女間の不平等が大きすぎる」という考え方に対しては、総じて肯定的な回答が多いが、若年層の理系男性で否定的回答が相対的に多く、また同年齢層・同性別内では理系の方が「とても賛同する」という強い肯定の回答が少ない。

・(図8)「あなたの性別に合わせて、「男らしく」もしくは「女らしく」見えるよう心がけている」という項目については、年配層の男性で肯定的回答が多く、また若年男性では理系の方が肯定する回答が多い。

・(図9)「あなたの性別であることで不利さを感じる」(有職者が対象)という項目については、男性よりも女性で明確に肯定的回答が多く、また女性内部では年配層・若年層ともに理系の方が「まったく当てはまらない」という強い否定の回答が少ない。

・(図10) 東大在学中に「女性の教員が少ないことに問題を感じた」という項目については、女性の方が男性よりも肯定的回答が多く、また年配層の女性の中では理系の方が肯定的回答が多い。

・(図11)「東大内でハラスメントや差別を受けたり見聞きしたことがあった」という項目については、女性の方が男性よりも肯定的回答が多く、また年配層・若年層ともに理系の女性において肯定する回答が明確に多い。

3. 大学時代の学び方や仕事との関連

・(図12)「大学・大学院で学んだことを仕事で活用している」(有職者が対象)という項目については、理系の方が肯定的回答が多い。

・(図13) (在学中に)「専門分野の勉強に熱心に取り組んでいた」という項目については、年配層では理系の方が肯定的回答が多いが、若年層では文理間の差は明確でなくなっている。

・(図14) (在学中に)「専門分野以外の幅広い授業を積極的に履修していた」という項目については、年配層よりも若年層で、男性よりも女性で、理系よりも文系で肯定的回答が多く、特に若年文系女性で多い。

・(図15) (在学中に)「課外活動に積極的に参加していた」という項目については、年配層よりも若年層で肯定的回答が多く、また同年齢層・同性別の中では文系の方が肯定的回答が多い。

- ・(図 16)「東京大学では学生への相談や支援の体制が不足していた」という項目については、理系よりも文系で肯定的回答が多い。
- ・(図 17) 東京大学への入学理由として「東京大学からの就職先がよいから」という項目を肯定する回答は、女性よりも男性で多く、また年配層では理系よりも文系で多い。
- ・(図 18) 東京大学への入学理由として「入学後に学部を選べるから」という項目を肯定する回答は、年配層よりも若年層で多く、また文系よりも理系で多い。

1. 社会に対する考え方

図 1

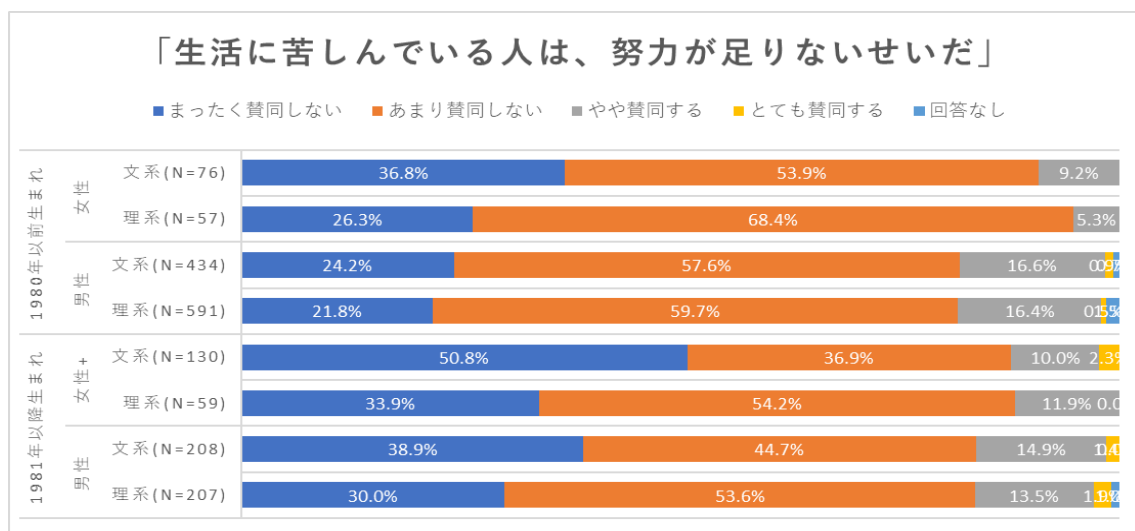


図 2

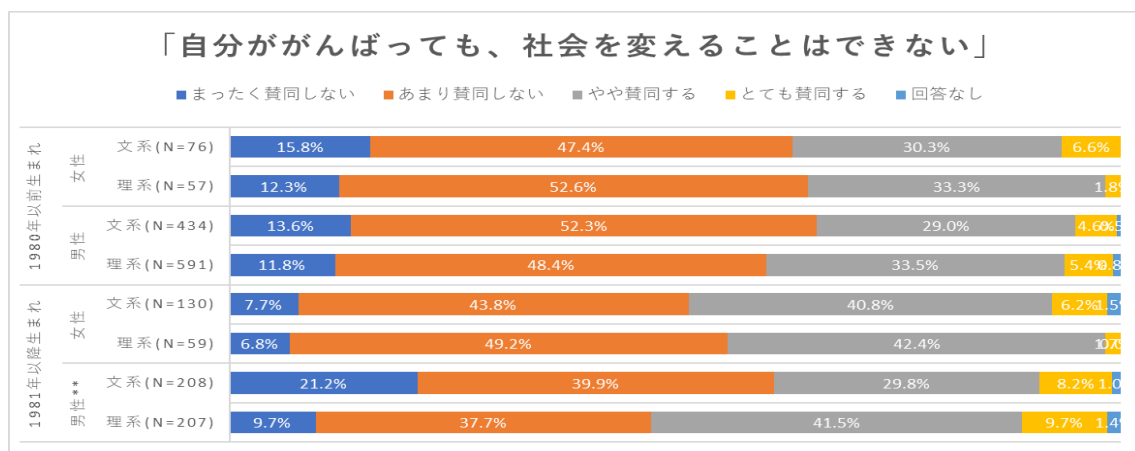


図 3

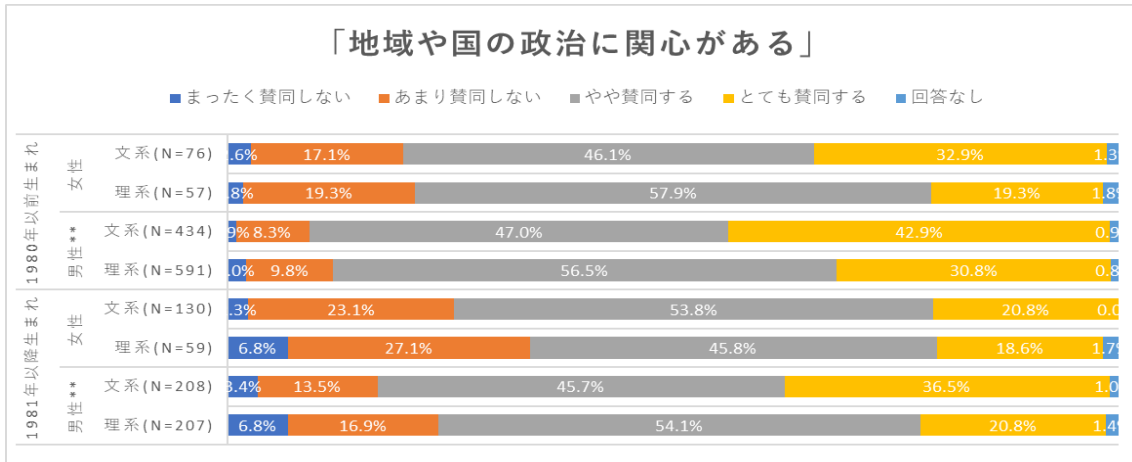
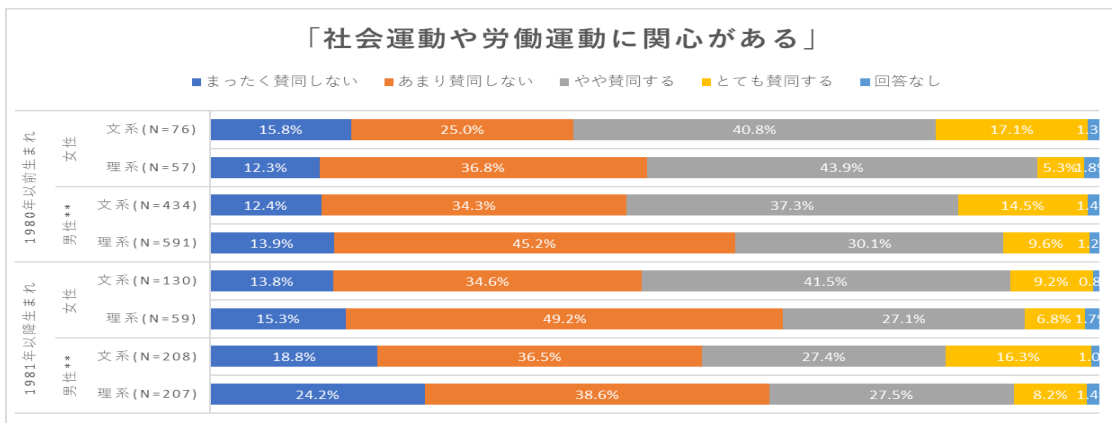


図 4



2. ジェンダーに関連する事柄

図 5

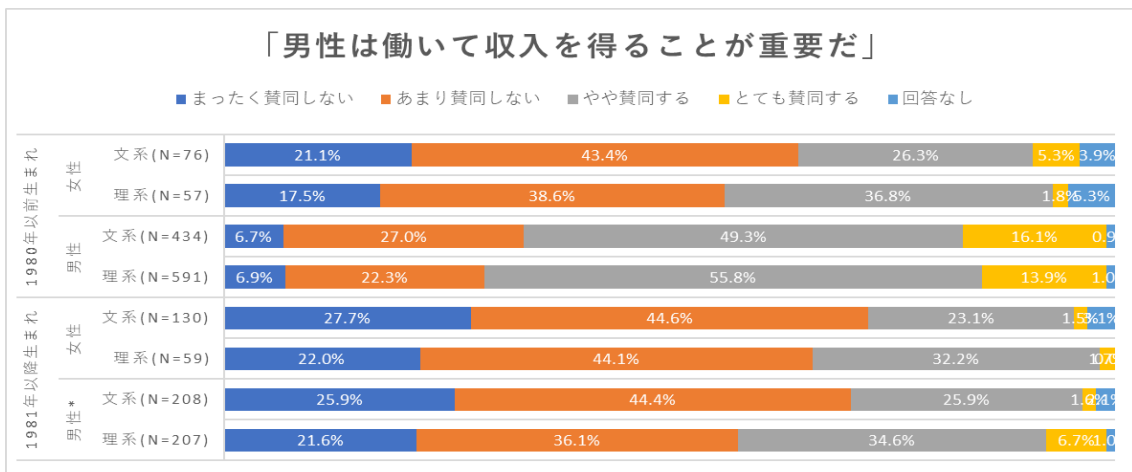


図 6

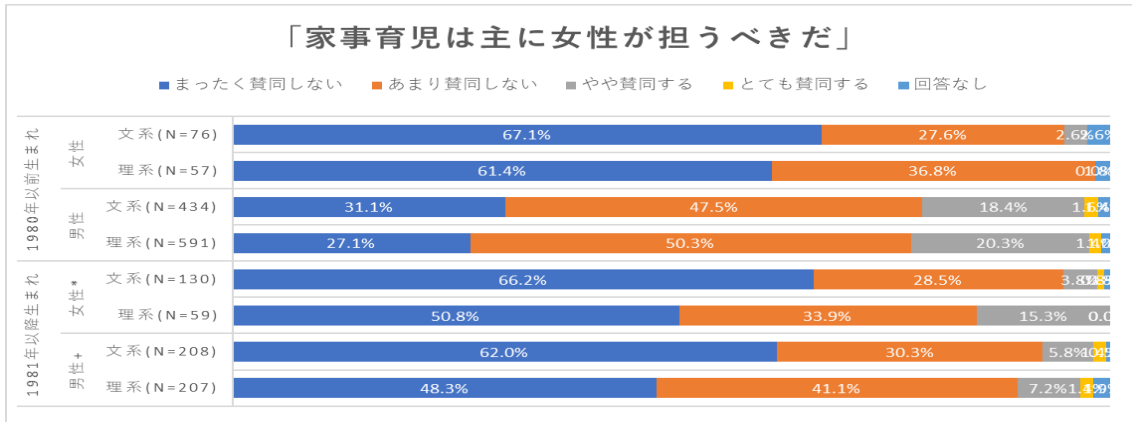


図 7

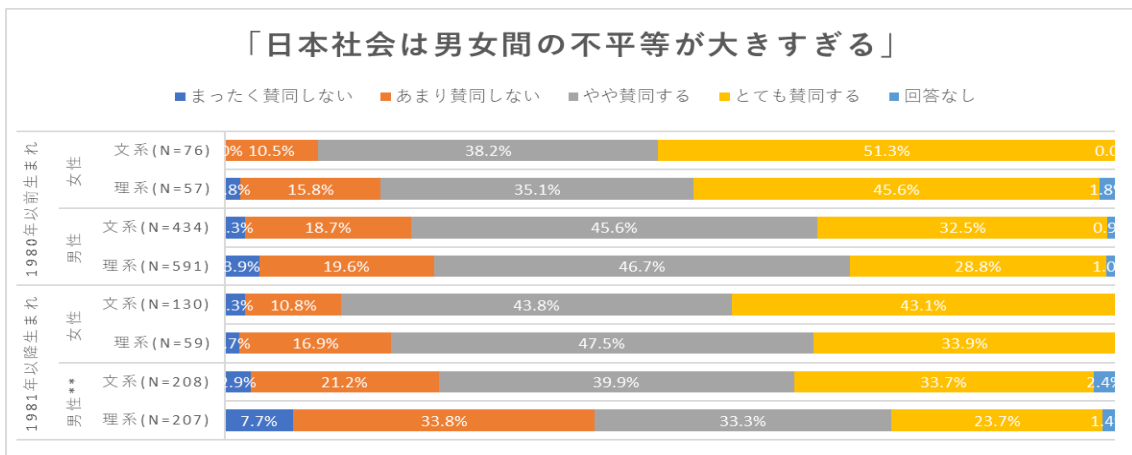


図 8

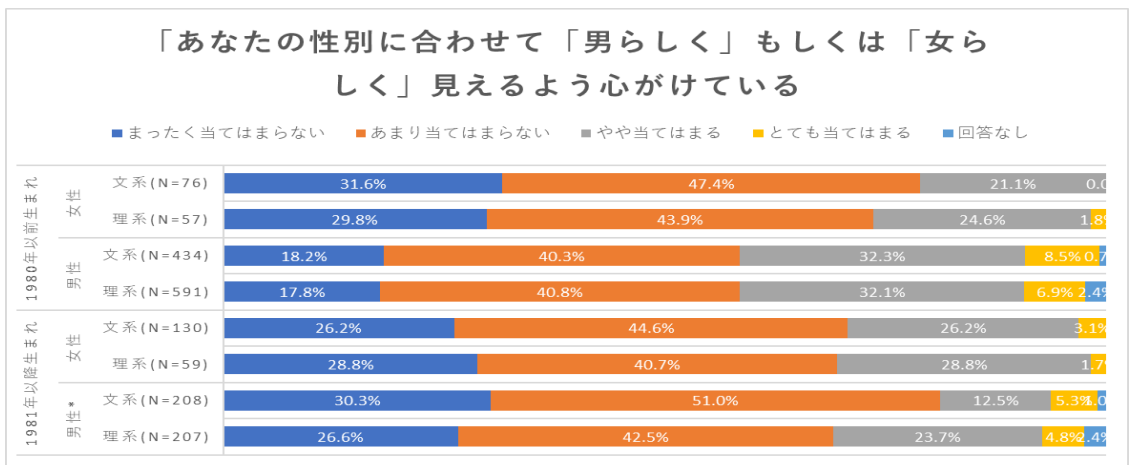


図 9

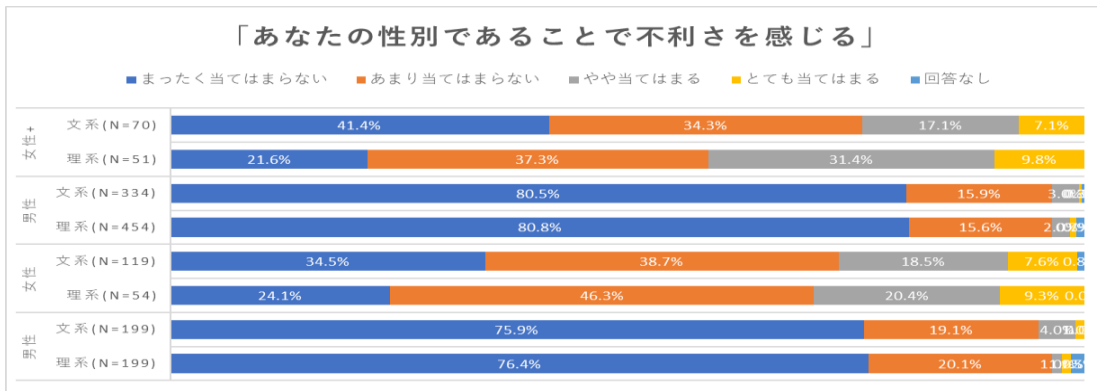


図 10

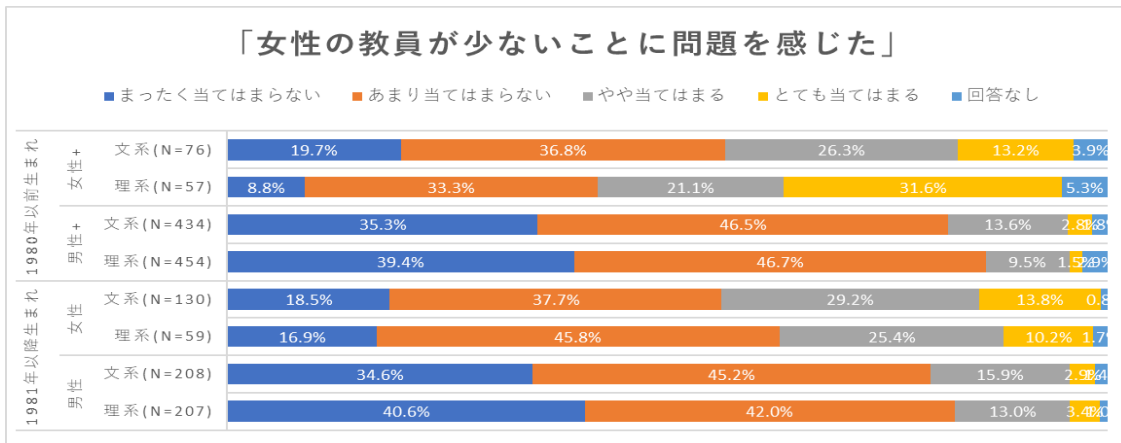
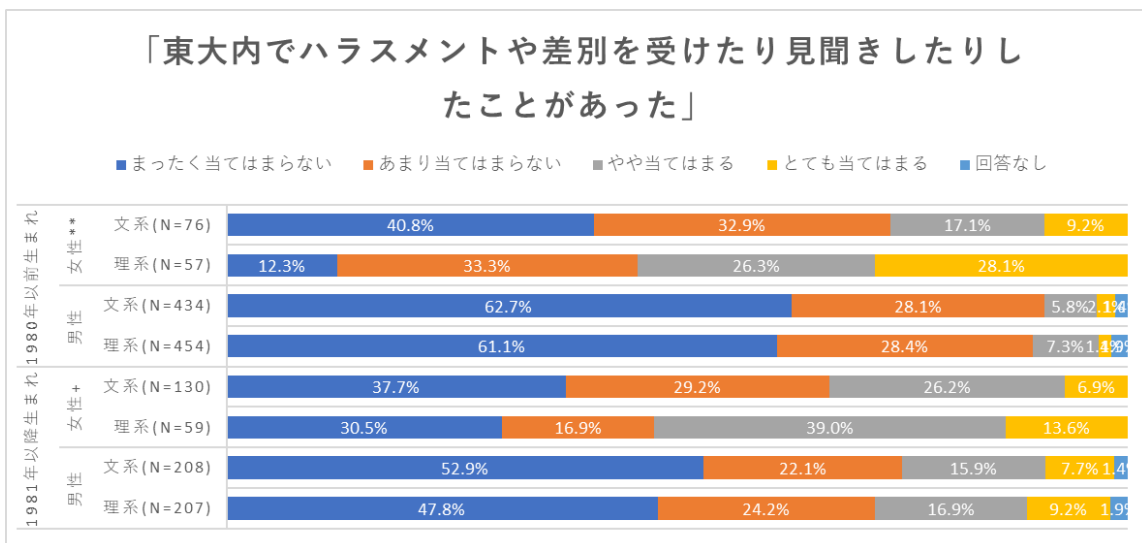


図 11



3. 大学時代の学び方や仕事との関連

図 12

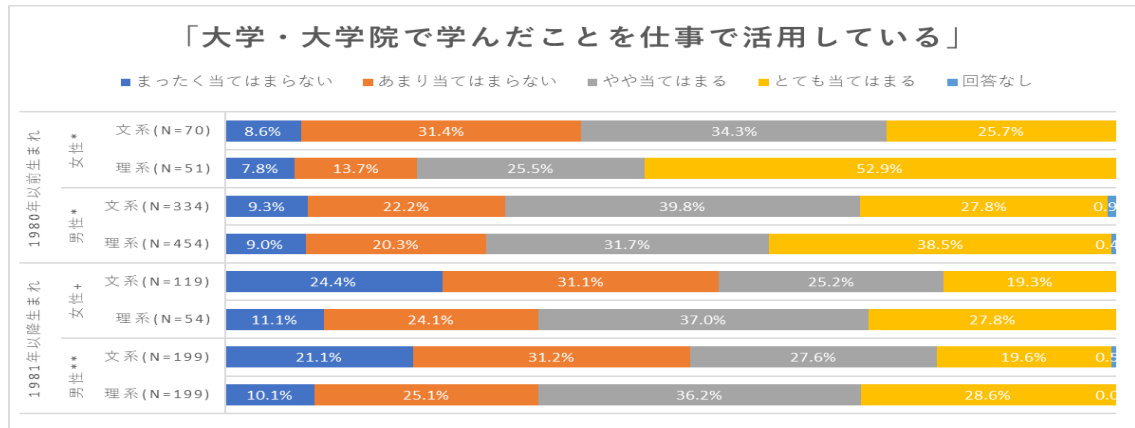


図 13

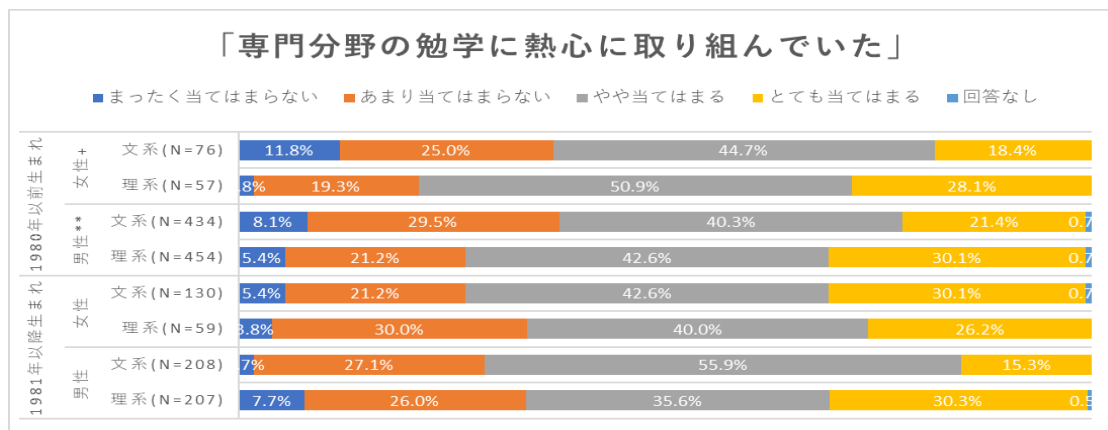


図 14

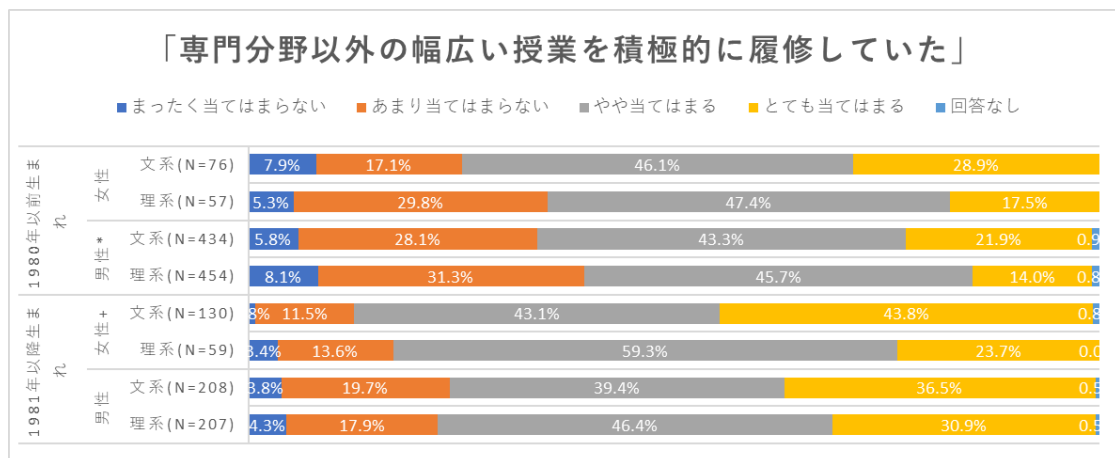


図 15

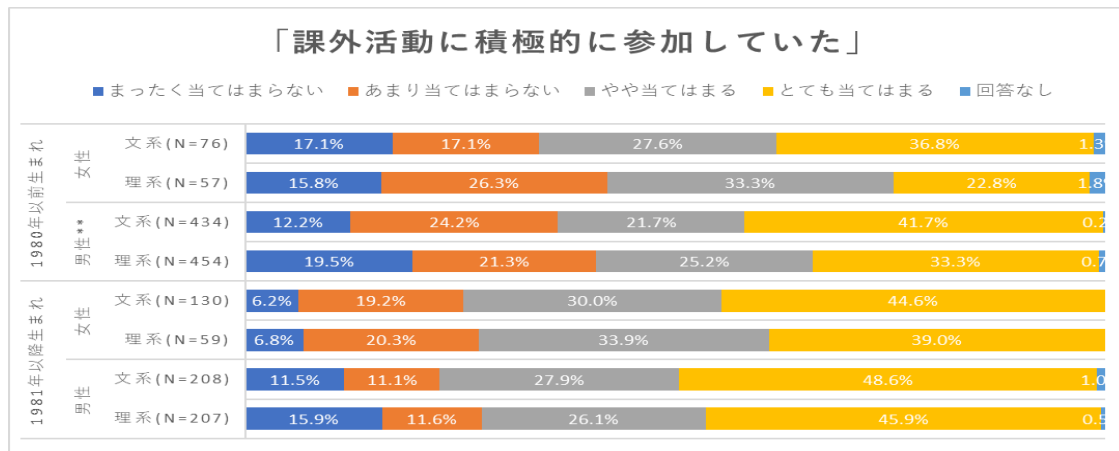


図 16

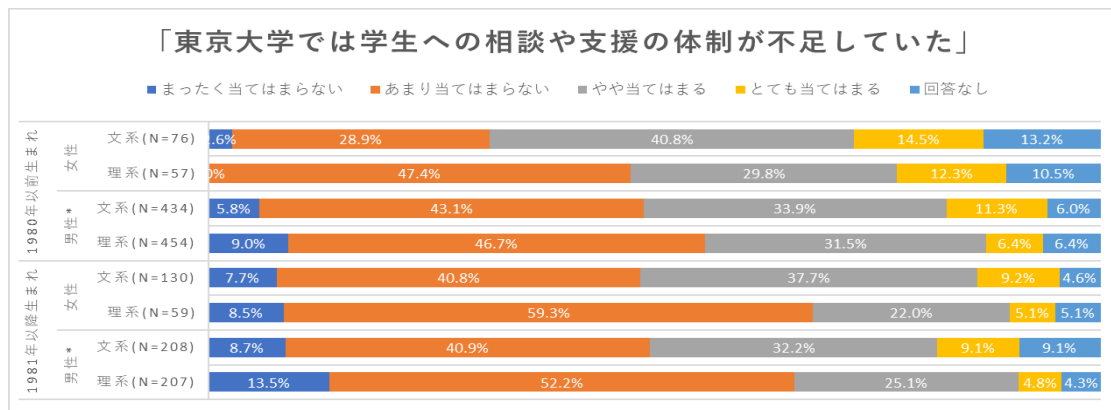


図 17

